



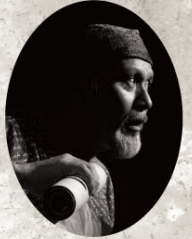
林 麻子

愛知県、善光寺東海別院副住職夫人、唱導文化研究所研究員／仏教大学卒業。現在、全国各地で絵解き口演を活発に展開中。



東野健一

ポトリア・パフォーマー／現在、インド日本を往来しながら現代の語り絵師として活動中。



林 雅彦

日本思想史、民俗学、庶民信仰と芸能研究者／1944年東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。専攻は説話・絵解き、アジアの宗教民俗学。絵解き研究で第6回日本古典文学会賞受賞。現在、国際熊野学会代表委員。新宮市市政功労者、明治大学名誉教授。淑徳大学人文学部講師。



斎藤弘美

1956年東京生まれ。(株)FM東京・報道課を退職後、フリーランスで在京ラジオ局を中心に活動しながら、明治大学大学院で近世村落史を専攻。平成24年ゆう・えん LLC設立後は放送業界を離れ、新潟県・高田で警女を中心にしたまちおこしや江戸・東京の歴史散策会などを主催。日本大学文理学部非常勤講師(民俗学)。NPO法人 高田警女の文化を保存・発信する会顧問。プロデューサー・コーディネーター ゆう・えんLLC代表。



伊東喜雄

1941年東京生まれ。放送作家。昭和42年高田警女杉本キウさんに出会い、以後、当時は健在だった長岡、柏崎、伊那、鹿児島(知覧)の警女さんたちと交流を重ねた。ラジオ番組「越後警女唄」(4回シリーズ)、テレビ番組「生きている人間旅行・90歳の警女伊平たけさん」のほかドキュメンタリー作品を中心に多数制作。平成20年記録映画「警女さんの唄が聞こえる」を完成。



「いまに生きる」
第2回
「絵解きの世界」
曼荼羅から紙芝居まで

ももんてん映像
&
民俗シリーズ

警女唄と
「生きている人間旅行」文化

放浪の民謡

日本の精神文化を解き明かす際に忘れることが出来ないのが放浪・遊行性である。放浪・遊行性には、多くの宗教者、歌人俳人だけでなく、芸能者としての警女がいた。今回の催しは、庶民の哀歓の中に身を置き底辺から社会を支えてきた漂泊者の文化に改めて焦点をあて、さらに海外の放浪民の研究者らをゲストに迎え、共通の地平を探ろうとするものである。

2015年9月13日(日)
13時半開場／14時開演

会場 両国門天ホール
墨田区両国1-3-9 ムラサワビル1-1階
※JR総武線「両国駅」西口から徒歩5分、
大江戸線「両国駅」A4、5出口から徒歩10分

料金 一般 2500円／門天会員 2300円／学生 2000円
※当日は各200円UP 全自由席

●ご予約・お問合せ先 両国門天ホール
Tel & Fax 03-6666-9491(火曜休館)
ticket@monten.jp



予告 第三回 2016年1月24日
韓・琉・日に通底する巫術の世界
上映 [韓国のシャーマン]
(撮影年等不詳／崔吉城、現東亜大学・東アジア総合文化研究所所長)
講演 韓・琉・日に通底する巫術の世界／崔吉城
実演 在日韓国民団の舞踊家グループによるサムルノリ(農楽)や日本の現代の路上パフォーマーとの競演
座談会(登壇者) 崔吉城 伊東喜雄 総合司会: 斎藤弘美

終了
第一回 2015年5月5日「人はなぜ旅をするのか」
上映 「警女さんの唄が聞こえる」(34分 2009制作／監督: 伊東喜雄)
越後高田警女の生活と最後の旅の記録映画
講演 「人はなぜ旅をするのか～日本文化と放浪の系譜～
林 雅彦(日本思想史、民俗学研究者)
実演 門付唄「岩室」、祭文松坂「葛の葉子別れ」ほか
演奏: 長岡葛の葉会／横川恵子、金川真美子
座談会(登壇者) 伊東喜雄 林 雅彦 横川恵子 金川真美子
司会進行／斎藤弘美

●両国門天ホール 2010年4月より旧門仲天井ホールにて隔月の6回シリーズで記録映画「警女さんの唄が聞こえる」(34分・伊東喜雄監督)の上映会を開催し、映画鑑賞のあと各界で活躍中のゲスト講師との座談会を開催。これを通して、警女の歴史的・現代的意味を再考する試みを行ってきた。先の企画の第2弾となる本プログラムを企画。 <http://www.monten.jp/>